

「乳幼児を対象とした今後の子育て支援施策」 に関する論点整理

令和4年10月5日

墨田区子ども・子育て会議 乳幼児ワーキンググループ

量の拡大から質の向上へ

【保育園の定員に関する課題への対応】

- 論点 1 : 保育園の定員割れに伴う園運営の不安定化に対してどう対応するか
- 論点 2 : 今後の1歳児の増加についてはどう対応するか

【保育の質の確保】

- 論点 3 : 保育の質をどのように確保するか

様々な子育て支援施策の展開

【支援が必要な子どもへの対応】

- 論点 4 : 支援が必要な子どもの預ける場所をどのように整えていくか

【在宅子育て支援の充実】

- 論点 5 : 在宅子育て世帯が交流や子育て相談ができる場所（子育てひろば）の充実についてどう対応するか

論点に関する委員意見（要約）

【論点1】 保育園の定員割れに伴う園運営の不安定化に対してどう対応するか

- ・ 今後、児童数の減少により定員割れ問題が顕著になってくることが予測される。その影響で私立保育園の経営状況の悪化を招き、突然、閉園するということがないように対策を立てる必要がある。

【論点2】 今後の1歳児の増加についてはどう対応するか

- ・ 育児休暇の取得率増加や取得期間伸長、新型コロナウイルスの影響による預け控え等により、入園者数が減少していると思うが、今後、コロナの終息とともに1歳児の入園者数の増加が見込まれ、対策を立てる必要があると思う。

【論点3】 保育の質をどのように確保するか

- ・ 世界的に見ても日本の保育士配置基準は厳しく、一人の保育士が見る子どもの数が多過ぎることが問題になっている。児童数が減少している今だからこそ、トライアル的に一部の園で「少ない保育」を実施し、その上で結果を検証してはどうか。

【論点4】 支援が必要な子どもの預ける場所をどのように整えていくか

- ・ 支援が必要な子どもが増えてきているが、区の療育機関の受け皿が不足しているため、申し込んでから面接まで数か月かかってしまう現状がある。対策として短期的視点では、ワンストップで相談しやすい状況、面接に行きやすい状況をいかにつくるか。中長期的視点では、マンパワーとして施設整備も含めて受入体制拡充を考えていかなければいけない時期に来ていると思う。
- ・ 支援が必要な子どもに対して保育園でもできる部分とできない部分があるが、今後は保育園、区の療育専門機関や保健センターとの連携がますます重要になってくる。
- ・ 保育園には療育ができる又は療育的な視点で見ることができる保育士を配置することが必要ではないか。

【論点5】 在宅子育て世帯が交流や子育て相談ができる場所（子育てひろば）の充実についてどう対応するか

- ・ 在宅子育て世帯の交流・相談場所として子育てひろばが整備されているが、区に2か所しかないのも、自宅から遠い方にとっては不便である。児童館も子育て世帯の交流・相談場所ではあるが、開設時間の短さや広さ等の問題がある。子育てひろばのような交流・相談場所を増やすことが必要ではないか。